## Sr<sub>2</sub>MgMoO<sub>6-δ</sub>単結晶薄膜の電気特性・電子状態評価

Transport properties and electronic states of single-crystal Sr<sub>2</sub>MgMoO<sub>6-\delta</sub> thin films 東大院理<sup>1</sup>, JST-CREST<sup>2</sup>, KEK-IMSS<sup>3</sup>, JASRI/SPring-8<sup>4</sup>, KAST<sup>5</sup>  $^{\circ}$ 重松  $\pm$   $^{1}$ , 近松 彰  $^{1,2}$ , 福村 知昭  $^{1,2}$ , 豊田 智史  $^{3}$ , 池永 英司  $^{4}$ , 長谷川 哲也  $^{1,2,5}$ Univ. of Tokyo<sup>1</sup>, JST-CREST<sup>2</sup>, KEK-IMSS<sup>3</sup>, JASRI/SPring-8<sup>4</sup>, KAST<sup>5</sup> <sup>O</sup>Kei Shigematsu<sup>1</sup>, Akira Chikamatsu<sup>1,2</sup>, Tomoteru Fukumura<sup>1,2</sup>, Satoshi Toyoda<sup>3</sup>, Eiji Ikenaga<sup>4</sup>, and Tetsuya Hasegawa<sup>1,2,5</sup>

E-mail: shigematsu@chem.s.u-tokyo.ac.jp

【序】ダブルペロブスカイト  $Sr_2MgMoO_{6\delta}(SMM)$ は、硫黄成分への耐性と炭素堆積耐性から、燃料電池 の電極への応用が期待されているが[1]、電気抵抗率の高さが課題である。先行研究では抵抗率が $10^{-1}$  $-10^{1}$  $\Omega$ cm (800°C)と幅が大きく、合成条件によるばらつきも見られる[2,3]。ところで、モリブデンのペロブ スカイト  $SrMoO_3$  の電気抵抗率は、多結晶  $(1.1\times10^4 \Omega cm, 300 K)[4]$ 、エピタキシャル単結晶薄膜  $(2.9\times10^5)$  $\Omega$ cm, 300 K)[5]、バルク単結晶 (5.1×10<sup>-6</sup> $\Omega$ cm, 300 K)[6]と形態によって差違が認められる。これらの点を 踏まえると、SMM においても散乱中心の少ない単結晶薄膜形態では低抵抗化する可能性が考えられる。 そこで今回我々は、パルスレーザー堆積 (PLD) 法にて SMM 単結晶薄膜を作製し、その電気特性と電 子状態の評価を行った。

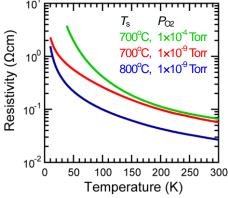
【実験方法】 PLD 法により SrTiO<sub>3</sub> (111) 基板上に膜厚 50 nm の SMM 薄膜を作製した。薄膜中の酸素 欠損量を変化させるため、基板温度  $(T_s)$ ・酸素分圧  $(P_{CC})$ を  $(T_s, P_{CC}) = (700^{\circ}\text{C}, 1 \times 10^4 \text{Torr}), (700^{\circ}\text{C}, 1 \times 10^9 \text{C})$ Torr), (800°C, 1×10<sup>4</sup> Torr), (800°C, 1×10<sup>9</sup> Torr) の4条件に設定した。これら全ての条件で、SMM のエピタ キシャル成長をX線回折により確認した。電気抵抗率の測定は4端子法にて行った。SMM薄膜の電子 状態は、SPring-8のBL47XUに設置された硬X線光電子分光装置(光源 7.94 keV)により測定した。

【結果と考察】  $(T_s, P_{\Omega 2}) = (800^{\circ}\text{C}, 1 \times 10^4 \text{Torr})$ で作製した試料は  $> 10 \Omega \text{cm}$  の絶縁体であった。その他 3 条件で作製した試料の電気抵抗率の測定結果を図1に示す。温度依存性は10-300Kで半導体的であり、 電気抵抗率の値は 300 K にて $< 7 imes 10^{-2} \Omega cm$  であった。単結晶化によって粒界散乱が減少したことが、低 抵抗化の理由と考えられる。またこれらの薄膜の Mo3d 内殻スペクトルと  $Mo^{6+} \cdot Mo^{5+} \cdot Mo^{4+}$ 成分によ るフィッティングの結果を図 2 に示す。低抵抗率の試料ほど、Mo~3d 内殻スペクトルの  $Mo^{5+} \cdot Mo^{4+}$ 成 分が増加している様子が見て取れる。このことは、SMM 中の酸素欠損に対して電荷中性を保つため生 じた  $Mo^{5+} \cdot Mo^{4+}$ が SMM の電気伝導を担うことを意味する。以上の結果から、結晶粒の形態を制御し 粒界散乱を減らすこと、並びに価数制御により  $Mo^{5+}$ ・ $Mo^{4+}$ を効率的に生成することで、SMM はさらな る低抵抗化が可能であり、燃料電池の効率の向上に寄与すると期待される。

【参考文献】[1] Y.-H. Huang et al., Science 312, 254 (2006). [3] D. Marrero-López et al., Mater. Res. Bull. 43, 2441 (2008).

[5] A. Radetinac et al., Appl. Phys. Express 3, 073003 (2010).

- [2] X.-M. Ge et al., Adv. Energy Mater. 2, 1156 (2012).
- [4] H. Mizoguchi et al., J. Appl. Phys. 85, 6502 (1999).
- [6] I. Nagai et al., Appl. Phys. Lett. 87, 024105 (2005).



SMM films fabricated at different  $T_s$  and  $P_{O2}$ . of SMM films.

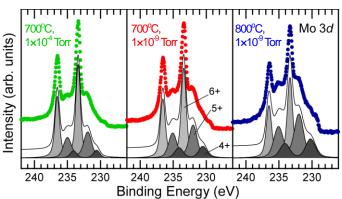


Fig. 1. Resistivity vs. temperature plots of Fig. 2. Mo 3d core-level spectra and results of curve fitting